



ひまわりライス通信

H30.7月
No.106

皆さんこんにちは、伊藤です。6月上旬は天気恵まれ平年以上の高温に、中旬は平年以下の低温で推移、下旬から7月前半は雨が続きおまけに、台風7号が北海道めがけてやってきました。温帯低気圧になったとは言え、何て年だ！（「口」III）北竜町も被害がありました幸い大事には至りませんでした。



苗を移植後、30日以内に除草剤を散布していきます。ラジコンボートで、田んぼの上をスイスイと走っていきますよ。（「・口」）オオー！



ここから液剤を入れていきます。1反分を約3分程度で処理ができ、なおかつ準備や片づけがとても楽にできます。（「・口」）



空知農業改良普及センターの普及員さんの指導のもと、カメムシ・ウンカのすくい取りの講習会を行いました。



普及員さんが田んぼに入り網の振り方や、いもち病の見つけ方の説明をしています。生産者さんも真剣に聞いています。



憎きアカヒゲホソミドリカスミカメ(通称カメムシ)は、高温になると発生が多く、稲の穂を吸汁して玄米に斑紋を作り、米の品質を損なう被害を与えます。



小さな粒は、ヒメビウウんかの卵。ウんかは寒さに強く越冬します。イネ科植物に寄生し、イネ縞葉枯病や黒すじ萎縮病の媒介虫で米の収量に影響します。



これがいもち病の症状です。病斑内部は灰色、周囲は赤褐色、外周は黄色になります。感染すると圃場全体が枯れあがるような被害がでます。



こういった病害虫から、お米を守る為にも、定期的に草刈りをします。刈る事により、稲の風通しも良くなり、カメムシを寄付けなくすることができます。



生産者さんも勉強しますよ。生育状況や病害虫・追肥のタイミングなどを学んだり、前年の疑問点などを話し合ったりしています。（「-口」）ウ



6月下旬から振り続けた雨と、7月2日の低気圧に伴う大雨によって、雨竜川の水位がどんどん上がってきました。（「・口」）/ ウウウ



小さな川が氾濫し、一部水田が冠水してしまいました。幸いにも、雨水はすぐに引いてくれたので、大事には至りませんでした。（「口」）=3 ヨカッタ～



大豆やソバ畑も水に浸かってしまいました。2年前の台風が3個重なった時よりも、被害は大きいような気がします。（*/口<*）

今月も最後までお付き合いいただきありがとうございました。また大雨によって被害に遭われた皆様には、心よりお見舞い申し上げます。それでは、また来月号でお会いしましょう。

J A きたそらち北竜支所 営農課
直通 0164-34-2247 FAX 0164-34-2216
生産情報公表 J A S のHPアドレスは <http://www.hokuryu-mai.com/>